



縁切榎／江戸時代から板橋宿の名所として名高く、悪縁は切ってくれるが良縁は結んでくれると、庶民の信仰を集めていた。



石神井川の桜



文殊院／1600年頃に創建された真言宗寺院
板橋宿本陣を務めた飯田家の菩提寺

る「板橋」は、石神井川に架かる旧中山道の橋であり、江戸時代当時は、長さ9間(16.2メートル)、幅3間(5.4メートル)の太鼓橋でした。

この「板橋」を往来したのは、文政4年(1821年)の時点では、加賀藩前田家をはじめ、9か国41大名であり、幕末動乱期の文久元年(1861年)の皇女和宮の降嫁行列も最後に板橋宿に宿泊しています。

このように板橋宿は、江戸時代を通じて北陸・中山道方面の交通の要所、江戸の玄関口として、活況を呈していました。

昭和7年、「板橋」はコンクリート製の橋に架け替えられ、同年10月の板橋区誕生に花を添えました。

現在、かつての宿場町は商店街に姿を変え、にぎわいを見せる中、周辺には多くの名所・史跡が残されており、歴史の面影にふれることができます。

石神井川の桜並木

歴史の舞台となった「板橋」の下を流れる石神井川の両岸には、昭和9年以降、中板橋から加賀付近にかけて、約千本の桜の木が植えられています。花見の頃は、ソメイヨシノを中心にヤマザクラやオオシマザクラなどが咲き誇り、「板橋十景」にも選ばれるように、区内を代表する桜の名所となっています。



昭和初期の板橋

昭和



大正時代の板橋

大正